

いろいろな漫画や小説
いろいろあるから
親子で楽しめるね

漢字には
ふりがなが
ついているよ

ニュースに強い!
むずかしいことばの
解説もあるわ

毎日届くのね
読む習慣が
つきそう

親子の会話 新聞ではずむ



わかりやすいニュース解説、おさえておきたいニュースのことば、さまざまな学習まんがなど、盛りだくさんのメニュー。読者の家庭では、お子さんと一緒にお母さんも愛読しています。

朝日小学生新聞

毎日発行 8ページ 月ぎめ1,769円(税込み)

ご購入、「朝学ギフト」のお申し込みは下記、またはお近くのASA(朝日新聞販売所)へ

通話無料 0120-415843 ウェブサイト www.asagaku.com

朝日小学生新聞のサンプル紙面もチェックできます。

スポーツコーナー

毎週1回掲載のスポーツコーナー、「週刊朝スポ!」では、最新情報や2020年東京五輪・パラリンピックで行われる競技を、楽しく見るコツを紹介しています! 紙面で紹介した動きは動画でも見ることができます。

2020年度大学入試改革に備え

読解力と表現力が身につく、図表を読み解く力!

今から『朝日新聞で学習ノート』

新しいテストは社会的テーマの知識を問う出題が増え、長文やグラフ、図表をすばやく読み解く力が求められます。その対策として、朝日新聞のコラムや解説を活用した「天声人語の書き写し」と「いちからわかる!の線引き学習」がお勧めです。A4判、両面表紙20ページ。学習ノートはASA(朝日新聞販売所)で。

朝日新聞は入試に出る!

2019年度も、多くの大学の入試問題に朝日新聞の記事が登場。理系・文系を問わず、さまざまな学部や学科の入試問題で採用されています。

※大学通信調べ(2019年5月31日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(朝日新聞デジタル)、毎日新聞(デジタル毎日)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)、読者723。

出題数 46%

産経新聞 4%

読売新聞 14%

毎日新聞 18%

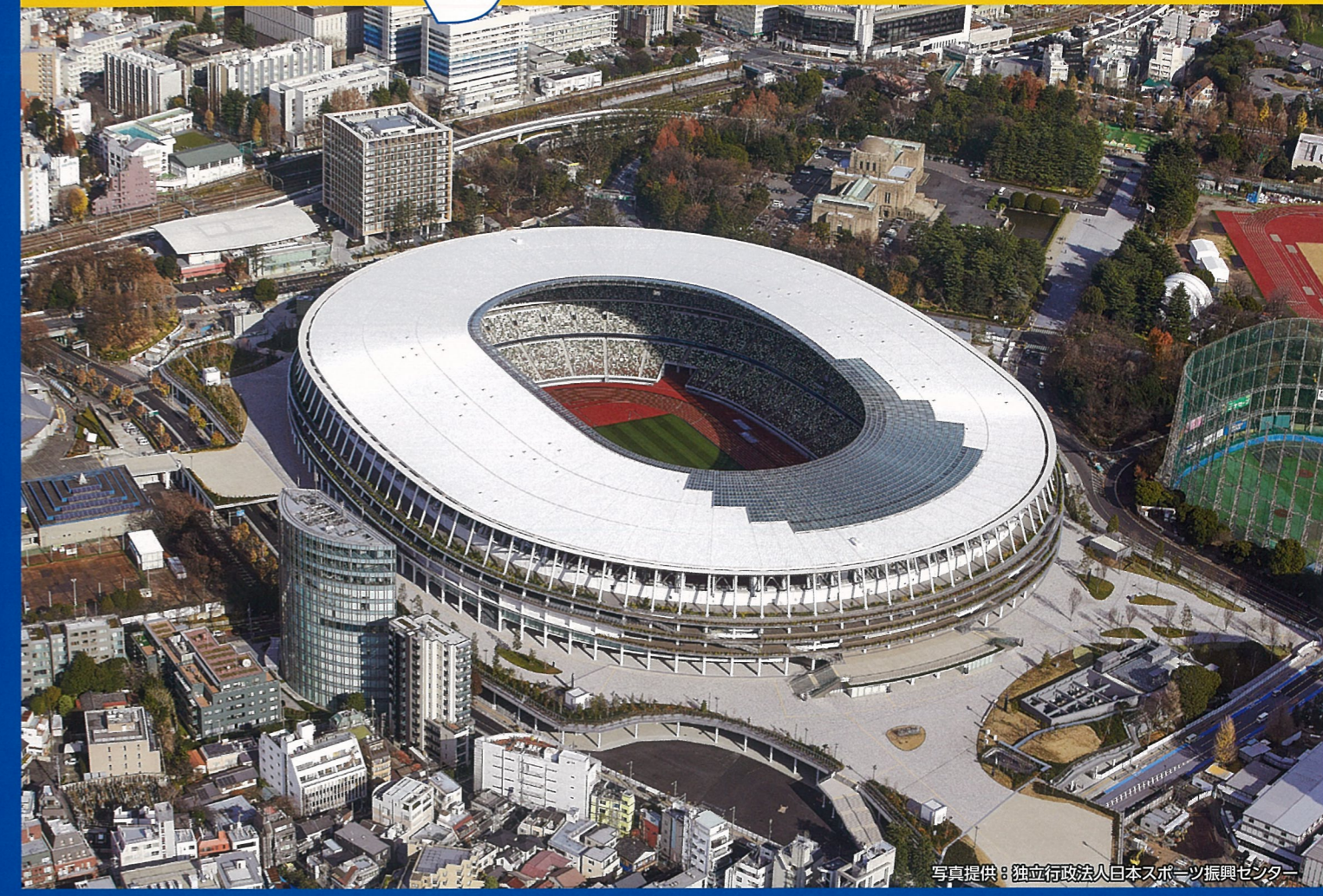
日本経済新聞 18%

朝日新聞 46%

出題校一覧はWEBで! 朝日 この大学で出た 検索

Tokyo FA News 2020 Vol.32 発行元 (公財)東京都サッカー協会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス6F TEL(0)3-6801-8001(代表) 令和2年3月1日発行

(公財)東京都サッカー協会広報誌



写真提供:独立行政法人日本スポーツ振興センター

巻頭特別企画 国立競技場 「超都市型スタジアムから生まれる熱狂と興奮」

MATCH REPORT

- 第98回全国高校サッカー選手権大会
- JFA第43回全日本U-12サッカー選手権大会
- 第51回東京都大学サッカー連盟新人大会
- JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル
- Brilliaカップ第3回東京都少年フットサルフェスティバルU-11
- 第11回JFAグラスルーツフェスティバル
- JFA公認D級コーチ養成講習会

TOKYO FA's Pick Up

国立競技場 「世界最高のユニバーサルデザイン」

UNION NEWS

連盟ニュース

「Tokyo FA News」は、東京都サッカー協会発行の広報誌です。年2回、東京都のサッカーにまつわる情報を発行しています。



Una Primavera Football Club が大会初優勝 Brillia カップ 第3回東京都少年フットサル フェスティバル U-11



主催：公益財団法人東京都サッカー協会 日時：2019年12月7日(土)～12月14日(土) 会場：世田谷区総合運動場体育館

2019年12月14日、「Brilliaカップ 第3回東京都少年フットサルフェスティバルU-11」が世田谷区総合運動場体育館で開催された。この日の2次ラウンドには1次ラウンドを勝ち上がった16チームが参加。激戦の末に「Una Primavera Football Club」が大会初出場初優勝を果たした。

強化の場の創出とフットサルの普及を目的

今回で3度目、プレ大会も含めれば5度目の開催となる。東京都サッカー協会フットサル委員会の木村正人実行委員長は「年々選手たちのレベルも上がってきている。戦術や技術もフットサルらしくなっているのかなと思います」と手応えを語る。もともとフットサルでは毎年、全国大会である「パーモントカップ」が行われている中で、サッカーのように各年代別の大会というものがなく、次代を担うU-11年代にとっても強化の場が限られていた。そういった子供たちに強化の場の創出とフットサルの普及を目的として2015年にスタートしたのが「Brilliaカップ」だ。

第3回の今年は3日間に拡大して開催。トーナメント形式で争われた最終日はやはりレベルの高い戦いが繰り広げられた。今回優勝したUna Primavera FCのように普段はサッカーを主戦場に行っているチームと、フットサルを専門に行っているチームの攻防戦も見どころのひとつ。特有の細かな戦術を駆使してくるフットサルチームに対し、サッカーチームはパワーやテクニックで対抗するなど、互いに「らしさ」を発揮する中で大会は大いに盛り上がった。

「今後10回、20回と続けて、Brilliaカップを子供たち、チームが目標とする、ここで優勝したいと思ってもらえるような大会にしていきたい。将来的に日本代表に選ばれるような選手が出てきてほしいですね」と木村実行委員長は大会の発展、そしてここを経験した選手たちの成長に願いを込める。自身も高校サッカー出身だという大会スポンサーの東京建



(左から)東京建物(株)大久保部長、木村実行委員長、堀江さん

物株式会社 住宅事業企画部CRM室の堀江隆寛さんは「Brilliaブランドとしても「人が輝くことで、街も輝く」という考えを持っている。選手たちやもちろん出ていない選手たちも含めて、チームのみならず、子供たちみんなが輝く、そういう場が作れるとすごくいいのかなと思います」とした。

大会初出場のUna Primavera Football Clubが制覇

激戦を制したのは2019年度に初めてパーモントカップに出場したUna Primavera Football Clubだった。

「全国を経験できて、フットサルの中で一番何が獲得できたかという

と、やっぱり強いフィニッシュの部分」と大泉伸幸総監督はいう。「一般的にフットサルという足元のテクニックや、細かいマークの外し方、コンビネーションの部分などがメインで取り上げられているとは思いますが、私の中では決定率、ゴール前でのシュートを打ち切る、決め切るという部分が本質だと思っているので、その部分の精度が特に上がったのかなと思います」。その最後の部分での力強さはContente 青梅 U11との決勝戦でも存分に発揮された。



フィニッシュを意識して、決勝も7得点

2分にエース小川稜太のゴールで先制すると、8分には双子の弟・小川颯太の目の覚めるような左足シュートで加点。前半終了前には小川稜が個の強さを見せてさらに2点を加えた。後半立ち上がりには失点をしたが、サッカーチームらしい力強さで押し込むと17分、19分、24分と小川稜が3点を叩き込んで7-1で勝利。キャプテンの小川稜はこの試合6得点と大爆発だった。

昨年はパーモントカップ都予選を勝ち上がり、初の全国大会出場を決めた。小川稜はひとつ上の代でもスタメンで活躍。開幕戦では記念すべきファーストゴールを奪っており、今年も2年連続の開幕弾を見据える。弟の小川颯も途中出場でも全国を経験。この2人が今年のチームの中心だ。いまは個々のポテンシャルにアドリブを効かせてやっているという中で今後の課題と語るの、やはりフットサルの細かな戦術の部分。「そこが1つ2つ3つと積み重なっていけばさらに良い攻撃ができる。守備でも今回「あっ、やられたな」という失点があった。サッカーチームではありつつも、サッカーに生かせる戦術的な部分はどんどん吸収していきたい」。

その上で狙うのは全国でのさらに高い景色。今日優勝したU-11のメンバーは、今年の夏全国大会を目指すことになる。「(ベスト16の敗戦は)本当に悔しかった。彼らと今年リベンジをぜひ成し遂げたいと思います。目指すは本当につべんだけ、全国優勝することしかないと考えています」と大泉総監督。個々の武器を磨きつつ、そこにサッカーの要素も積み重ねて、日本一を目指す。

JFA グラスルーツフェスティバル 2019 in 東京



【写真提供：オールスポーツコミュニティ】

主催：公益財団法人東京都サッカー協会 日時：2019年12月1日(日) 会場：AGFフィールド<天然芝フィールド>

今回で11回目となる「JFA グラスルーツフェスティバル 2019 in 東京」が12月1日にAGFフィールドで開催された。午前の部が「U-6」(保育園、幼稚園児などの未就学児)、午後の部が「U-8」(小学校1年生～2年生)で行われ、晴天の中、子供たちは笑顔でボールを追い回していた。

サッカーとの良い出会いの場を創出

快晴の空のもと、ピッチに子供たちの笑顔が咲いた。「より多くの子供たちにサッカーとの良い出会いの場を創出」することをテーマに行われてきたイベントも11回目。「U-6」の部が152名、「U-8」の部が158名と、今回も多くの子供たちが天然芝の環境のもとボールと触れ合った。

午前の部が幼稚園児などの未就学児を対象とした「U-6」、午後の部は小学校1年生～2年生がターゲットの「U-8」に分かれて開催。それぞれ動きづくりやボールフィーリング系4セッションと、ゲーム系4セッションの併せて8セッションをローテーションしながら行われた。

各セッションでは「おにごっこ系」、「動きづくり系」と、「ボールフィーリング系」ではドリブル、シュートに分かれ4セッションを実施。シュートやドリブルというサッカーと直接関係のあるプレーだけでなく、ボールを使わなかったり、手に持って行うなど、一見サッカーとは関係ないような動きにもサッカーの要素が散りばめられており、サッカーをやったことのある子はもちろん、やったことのないような子供たちも、楽しみながらサッカーに必要な動きを学んでいた。午後の「U-8」の部ではそこにパスなど、よりサッカー的な動きも加えられた。



ゲーム系セッションでもボールを必死に追いかける

そして子供たちお待ちかねのゲーム系セッションもバリエーションに富んだメニューで行われた。ミニゴールを使った3vs3に、4つのゴールを配置したゲームでは、空いているゴールを探すために顔が上がりずと視野の広さが身につく、コーンゴールを利用して行われたセッションでは、キーパーは5人が手を繋いで広いエリアを守らなければいけない中で声の掛け合いや連携が養われた。未就学児にとってはまだ大きな少年用ゴールも、小学校年代に向けて大きな経験となっただろう。

「オールトーカー」が楽しい時間をサポート



笑顔が咲いた女の子グループ

加えて、今回初めての試みとして組み込まれたのが「女の子グループ」のセッションだ。自信のある女の子は男の子に混ざってプレーすることもできるが、やはり初心者女の子にとっては「サッカーはやりたいけど、男の子たちと一緒にプレーするのはちょっと…」という不安もあるだろう。そういった子供たちにもメインテーマである「サッカーとの良い出会いの場を提供」するべく、女の子のみのセッションを取り入れた。女性コーチの数も多く、優しいお姉さんたちの指導に女の子たちも安心してプレーしているように見え、自然と笑顔の花が咲いた。

また、プロクラブやそれに準ずる団体の多い東京の特色を生かし、FC東京、東京ヴェルディ、三菱養和会、FC町田ゼルビア、東京武蔵野シティFC、立川・府中アスレティックフットボールクラブ、ベスカドーラ町田、フウガドルすみだ、スフィード世田谷FC、FC十文字VENTUS、ファンルーツアカデミー、クーバー・コーチング・ジャパンと、多くの団体が一堂に会して、まさに「オールトーカー」で楽しい時間をサポート。これからサッカーを始める子供たちにとっては最高の出会いの場となったに違いない。

COMMENT

東京都サッカー協会キッズ委員長・平野正義



天候に恵まれて、その中で子供たちがノビノビやってくれたと思います。身体を動かすことによって脳にもたくさん刺激がいて、血流も当然良くなるので、勉強もできるようになります。トータルで立派な人間を育てるためには運動だけでもダメで、勉強だけでも偏りがありますから、このイベントを通してそういうことに繋がってくれればというのが私たちの願いです。もちろん一部の子は今後選手になっていきますが、そこは大きな目標ではなく、サッカーが楽しかったというところから始めて、将来的には身体も心も成長してくれるというのが望みですね。